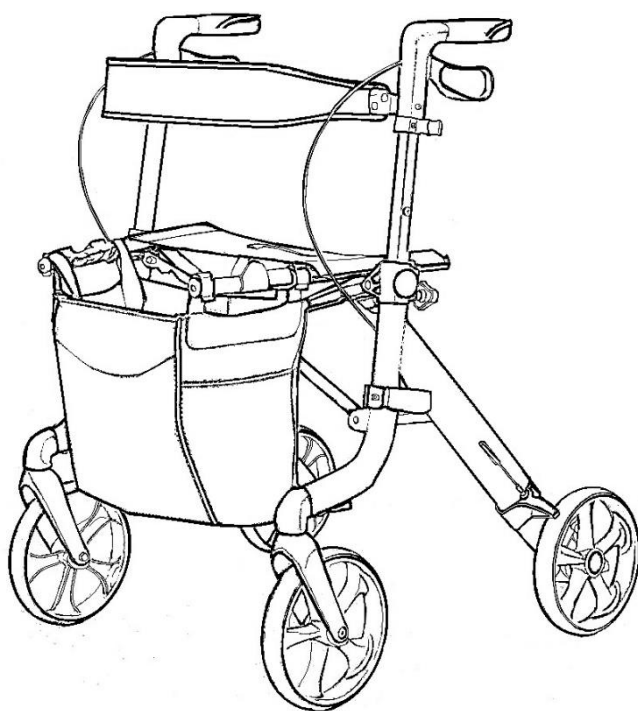


ウォーカー+アート 取扱説明書

このたびは、ウォーカー+アートをお買い求め頂きまして誠にありがとうございます。
本製品のご使用前には必ず「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全に使用してください。
また「取扱説明書」は必要なときに取り出しやすい場所に保管してください。
使用環境や使用者の身体状況が変化した際には再度お読みください。



目次

安全にお使いいただくために	1
歩行の際について	2
座る際について	3
保管搬送の際について	3
各部の名称	4
使用方法	5
事前確認	5
歩行車の組立	5
折りたたみ方	6
ハンドルの高さ調節方法	6
ブレーキの掛け方	7
ブレーキロック/ロック解除	7
スローダウンブレーキの使い方	8
杖ホルダーの使い方	9
日常のお手入れ	10/11/12
仕様	13
保証書	



ラックヘルスケア株式会社

コード No.2023.05

安全にお使いいただくために

使用上の注意

- ウォーカー+アートは使用者自身の歩行を補助する為のものです。用途以外の使用はしないでください。
- 自力で歩行できない方は使用しないでください。
- ハンドル操作及びブレーキ操作ができない方は使用しないでください。
- 歩行の際は、必ずハンドルグリップを持って使用してください。
- 使用者に合ったハンドルの高さに調節してから使用してください。
- 使用前には必ずブレーキ及びブレーキロックの効き具合を確認してから使用してください。
- 砂、泥、水たまりなどのある場所での使用は故障の原因となりますのでおやめください。
- 交通量の多いところ、混雑しているところ、また夜間の使用はできるだけ避けてください。
- 踏切などの溝を越える際は、前輪を挟み込まないように前輪を上げて操作してください。
- 保管の際は雨ざらしにせず、直射日光を避け、高温にならないところに保管してください。



警告

この表示項目を守らずに誤った取扱をすると重大な事故につながり、使用者が重傷を負う恐れがあります。



注意

この表示項目を守らずに誤った取扱をすると使用者が傷害を負ったり、物的損害をこうむる恐れがあります。

1.歩行の際について

警告

- バスケット以外のところに荷物を載せたり、ハンドルに吊り下げますと、バランスを崩し転倒する恐れがありますので、絶対にしないでください。
- バスケットに乳幼児を乗せたり、座面に人を乗せたまま歩行車を動かさないでください。バランスを崩して転倒し、ケガをする恐れがあります。
- 雨や雪、風の強い日、凍結している道、滑りやすい場所でのご使用はバランスを崩し転倒する恐れがありますので、絶対に避けてください。
- 座面に立ち上がったたり、踏み台代わりにご使用になりますと非常に危険ですので絶対にしないでください。バランスを崩し転倒する恐れがあります。
- 傘をさしながら、または片手に荷物を持ちながら等、片手ハンドルでの歩行はしないでください。バランスを崩し転倒する恐れがあります。
- 背ベルトを持って立ち上がったたり、持ったまま使用しないでください。過度な力が繰り返し加わると、亀裂などに発展しベルト破断による事故につながる恐れがあります。
- ブレーキワイヤーが障害物などに引っ掛からないように注意してご使用ください。
- ハンドルの高さは目盛りの線に合わせてご使用ください。
- 歩行時に杖ホルダーから杖が落ちないように注意してください。

注意

- 小さな凸凹や段差のある路面を歩行する際は、前方に転倒しないように前輪を上げて操作してください。
- 使用中に身体を乗り出すなどして、安全性を損なうことのないように操作してください。
- バスケットからはみ出すような荷物や重量物を入れないでください。（5kg 以内）
- ブレーキを握った状態、ならびにブレーキロックをした状態のままで歩行しますと、後輪が異常にすり減って危険です。このようなご使用はしないでください。

2.座る際について



警告

- 座る際は、ブレーキが完全にロックされた状態で車輪が動かないことを確認してください。車輪が動くとバランスを崩し、転倒する恐れがあります。
- ブレーキがロックされた状態でも背ベルトに寄りかかるような座り方をしないでください。転倒する恐れがあります。
- 坂道で腰をかけると大変危険です。バランスを崩し転倒する恐れがありますので、決してしないでください。
- 座面に座った時、本体を動かさないようにしてください。バランスを崩し転倒する恐れがあります。
- ブレーキロックが効いた状態でも、ハンドルの片側に寄りかかって座ると車輪が滑って転倒する可能性があります。両手でハンドルをしっかり持ち、中央にお座りください。
- 立ち上がる際にハンドルの片方だけに体重をかけると転倒する恐れがあります。両方のハンドルにバランスよく体重をかけ、ゆっくり立ち上がってください。
- 背ベルトを持って立ち上がらないでください。背ベルトに過度な力が繰り返し加わると、傷、割れ、亀裂などに発展し、ベルト破断による事故につながる恐れがあります。
- 座面以外の場所に座らないでください。転倒やパーツの破損につながる恐れがあります。

3.保管・搬送の際について



警告

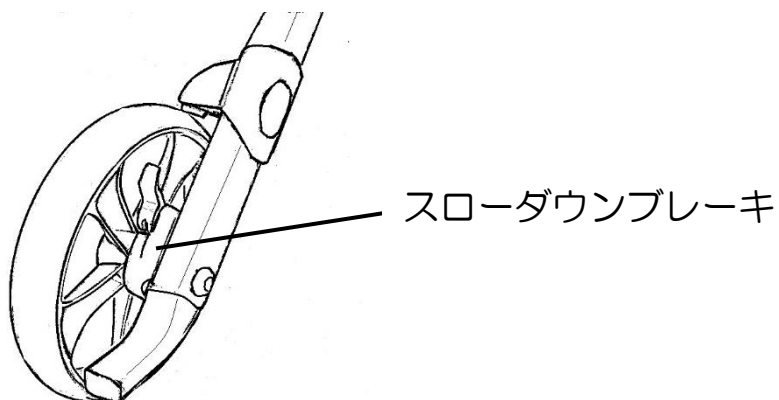
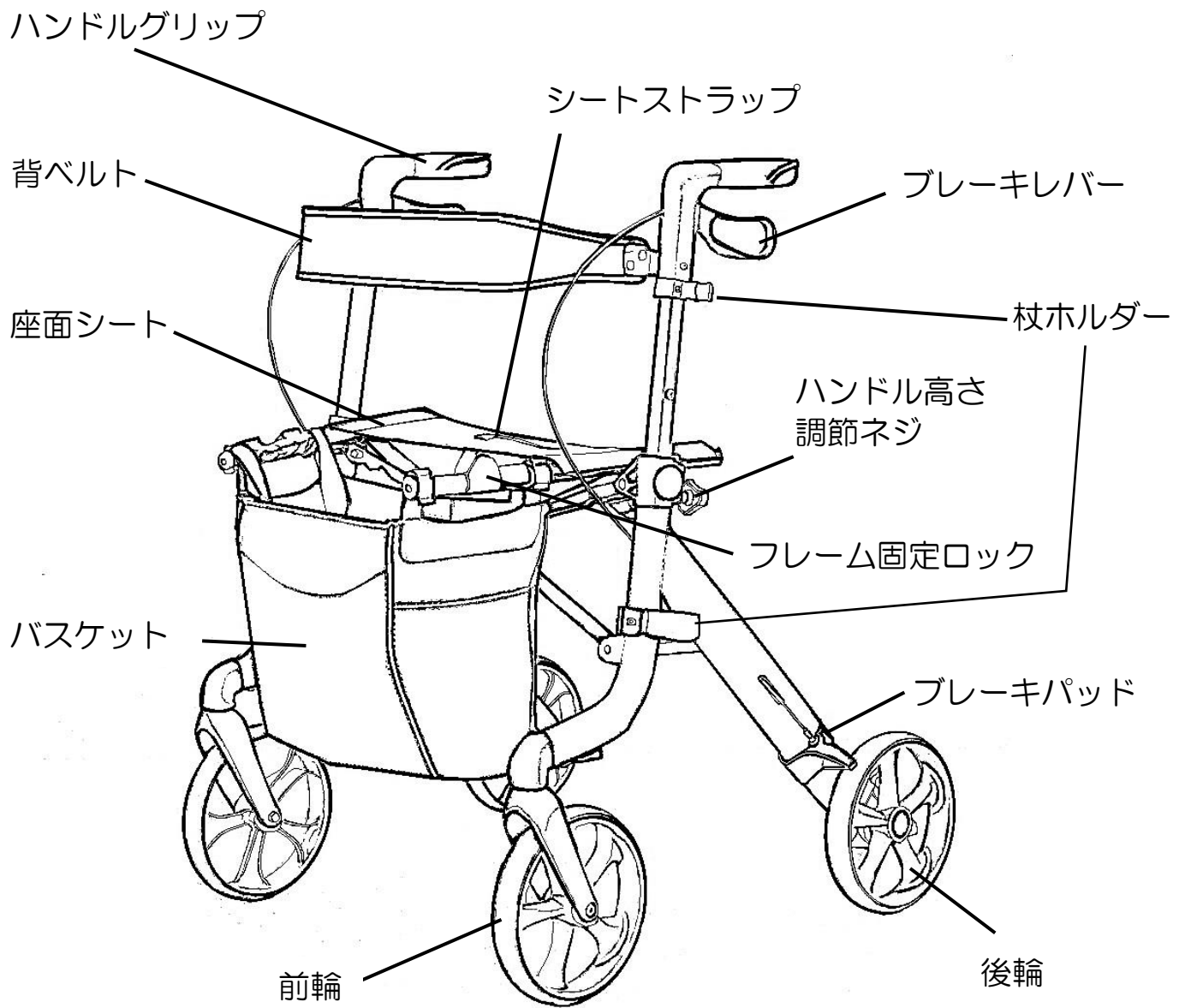
- 背ベルト・バスケット・折り畳みストラップを引っ張って本体を持ち上げたり、移動をしないでください。パーツの破損につながる恐れがあります。
- 背ベルトに過度な力が繰り返し加わると、傷、割れ、亀裂などに発展し、ベルト破断による事故につながる恐れがあります。
- ブレーキワイヤーを持って歩行車本体を持ち上げないでください。ブレーキワイヤーが外れ、ブレーキがロックされた状態になる恐れがあります。



注意

- 背ベルトに過度な力が繰り返し加わると、傷、割れ、亀裂などに発展し、ベルト破断による事故につながる恐れがあります。梱包する際は必ず背ベルトを取り外してください。

各部の名称

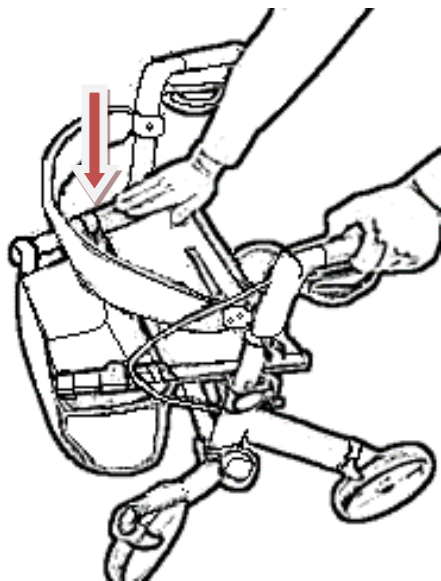


使用方法

●事前確認

ウォーキー+アートを箱から取り出してください。その際、部品不足や損傷があった場合は使用を控え、販売店にご連絡ください。

●歩行車の組立



フレーム固定ロックを解除した後、両側のシートチューブを『カチッ』と音が鳴るまで押し下げてください。

フレームが完全に開いて、シートチューブが固定されて、安全に使用できることをご確認ください。

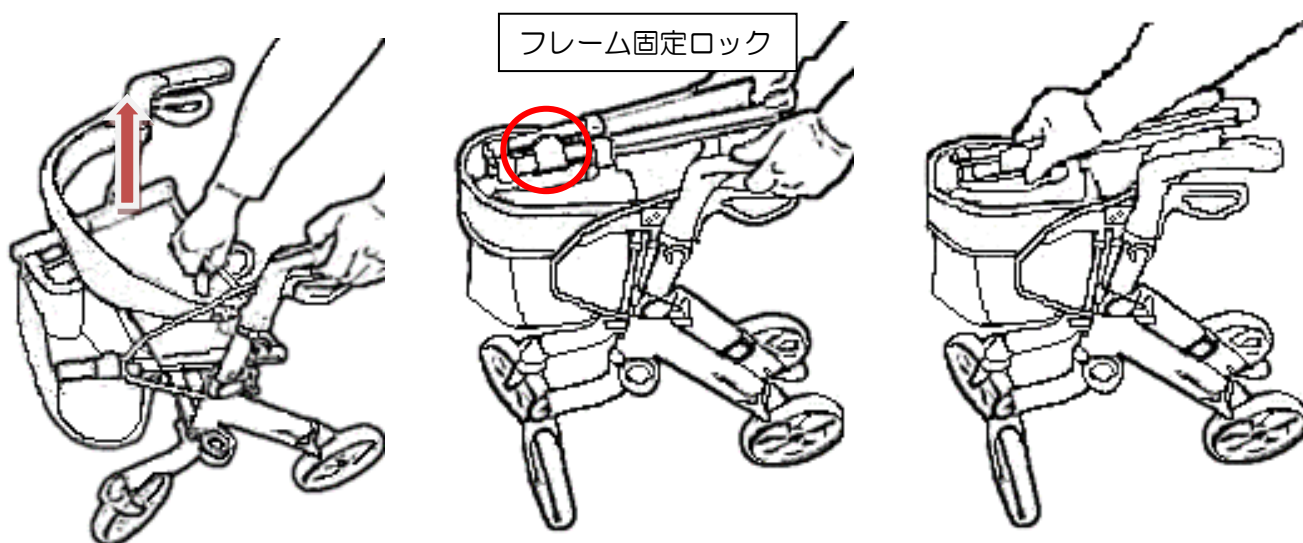
前頁（P4）の図で開いた状態をご参照ください。

⚠ 注意

- シートが完全に広がった状態で、シートチューブが本体に固定され緩みがないことをご確認ください。
- ハンドルグリップを握り、力を入れた際にハンドルが固定されていることをご確認ください。
- 組立時に指を挟まないよう注意してください。
- ご使用前にアクセサリ類が適切な位置にしっかりと固定されているか確認してください。

●折りたたみ方

座面にあるシートストラップを上方へ引き上げて歩行車を折りたたんでください。

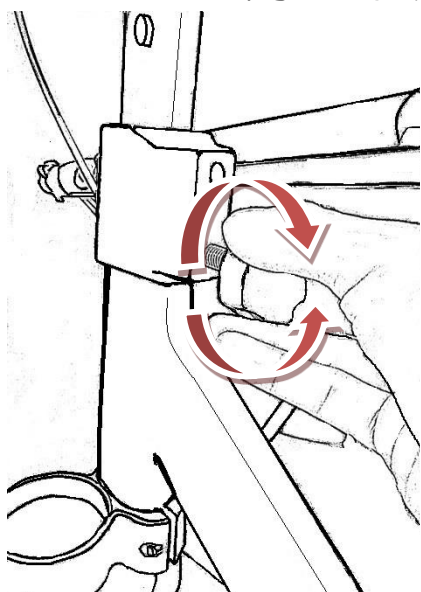


※本体を折りたたみ、フレーム固定ロックが『カチッ』と音がなり機能するまで閉じてください。

! 注意

●折りたたみ時に指を挟まないよう注意してください。

●ハンドルの高さ調節方法



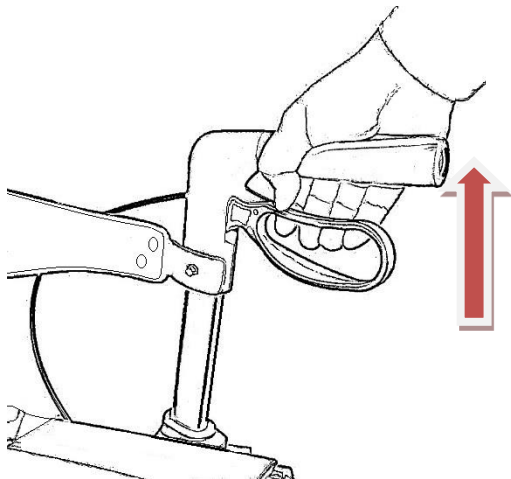
ハンドル高さ調節ネジが正しくフレーム本体に取り付けられていることをご確認ください。

- ハンドル高さ調節ネジを緩めてください。
(左に回すとネジは緩みます)
- ご希望の高さに調節してください。
- ハンドル高さ調節ネジを固定してください。
(右に回すとネジは固定されます)
※ハンドル高調節域は P13 参照ください。
- 調節後、必ずハンドルの高さが動かないことをご確認ください。

! 注意

●両側のハンドルは同じ高さに設定してください。

●ブレーキの掛け方



歩行車のブレーキを掛ける場合は、ブレーキレバーを握ってください。

止まった状態にするにはブレーキレバーをそのまま握った状態にしてください。

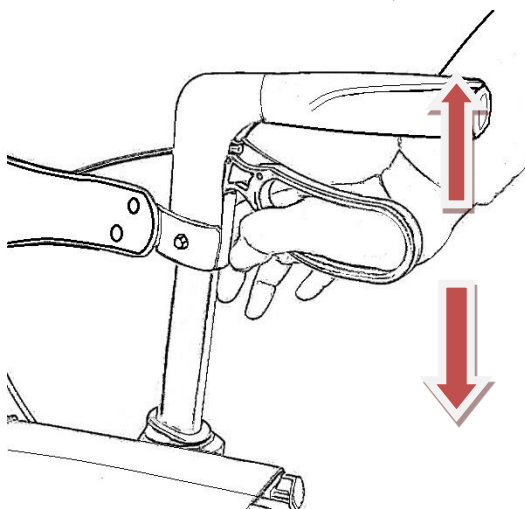
動き出す際はブレーキレバーを握る力を緩めてください。

力を緩めると自然にブレーキは解除されます。

▲ 注意

- 座面に腰掛ける場合は必ずブレーキロックを使用してください。

●ブレーキロック/ロック解除



ブレーキロックをする際は、『カチッ』と音がするまでブレーキレバーを下に押し込んでください。

歩行車が止まっていることを確認した後、反転して腰掛けてください。

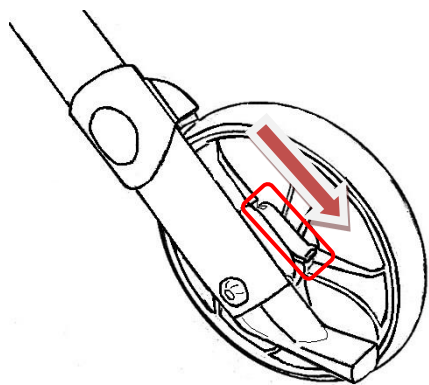
立ちあがった後は反転して歩行車の方を向ってください。

ブレーキレバーを引き上げて、ブレーキロックを解除してください。

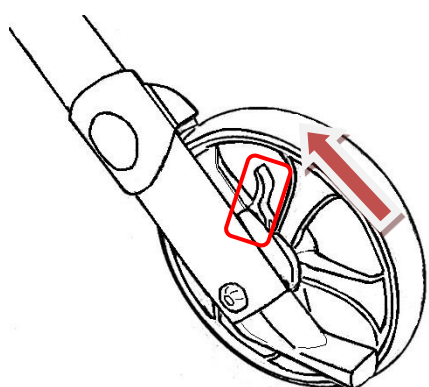
▲ 注意

- 保管する際は常にブレーキを掛けた状態にしてください。
- 座面に腰掛ける際は両手でハンドルをしっかり持ち中央にお座りください。

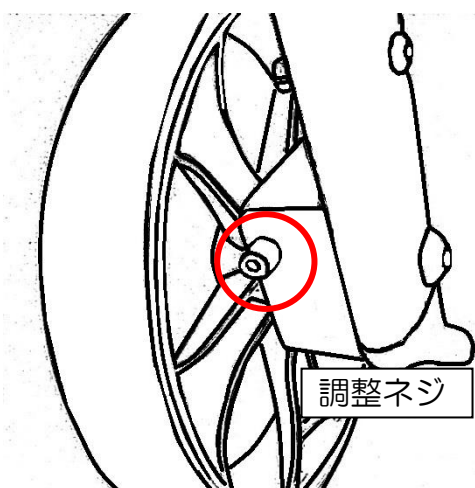
●スローダウンブレーキ（抵抗器）の使い方



後輪内側にある銀色のレバーを下げると後輪の回転速度を調整することができます。



解除する場合は銀色のレバーを上げてください。

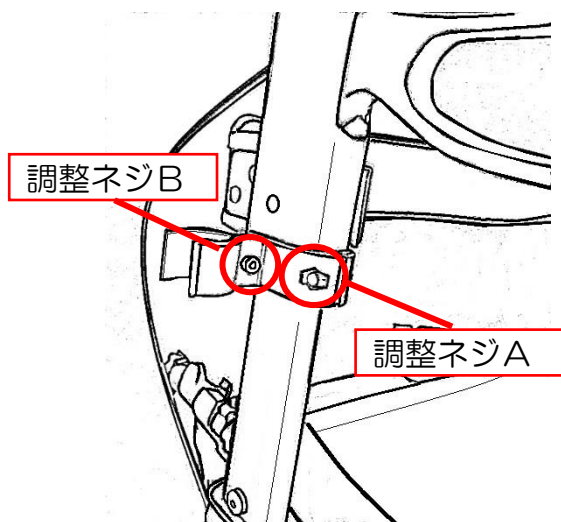


スローダウンブレーキはネジを回転することで抵抗の強さを調整することができます。



●スローダウンブレーキのレバーは途中で止めず、必ず下まで押し下げてください。

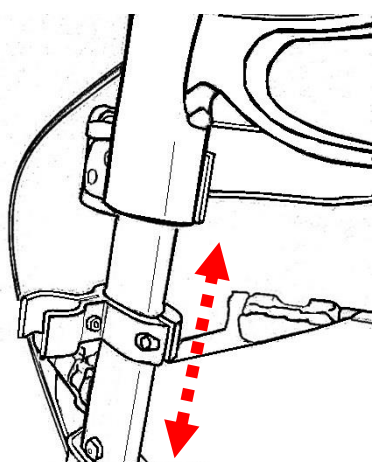
●杖ホルダーの使い方



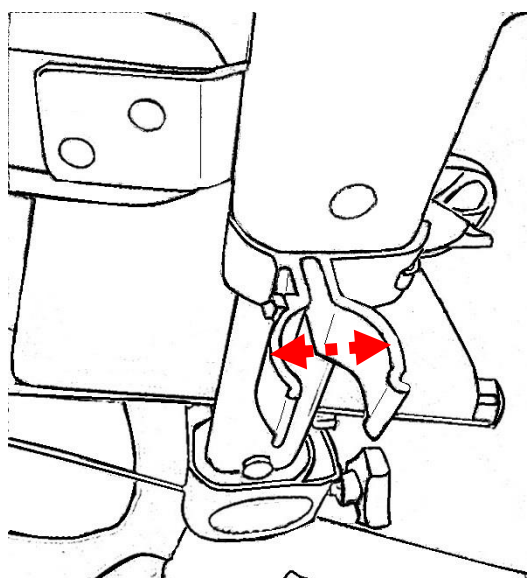
杖ホルダーは下記の調整が可能です。

調整ネジA : ホルダーの高さ調整
調整ネジB : ホルダーの幅の調整

杖ホルダーは左右どちらのフレームにも取り付けが可能です。



調整ネジAを緩めると、ホルダーの高さを調整することができます。調整後は、ホルダーが動かないように調整ネジAをしっかりと締めてください。



調整ネジBでホルダーの幅の調整をすることができます。杖がホルダーから外れないように、直径に合わせて調整してください。



警告

- 歩行中に杖ホルダーから杖が外れないように杖のサイズに合わせて調整してください。
- 杖ホルダーには、杖以外の物を使用しないでください。

日常のお手入れ

●メンテナンス

長くご愛用いただくために、定期的なメンテナンスをお勧めします。
破損・傷のある部分はすぐに取り替えてください。ネジが緩んでいないことを確認して緩んでいれば締めなおしてください。

●清掃について

車輪、プラスチック部品、金属部分の汚れは、水を含ませてよくしぼった布でふき取ってください。ひどい汚れは薄めた中性洗剤を含んだ布で拭いた後、水を含ませてよくしぼった布で数回拭きとってください。



注意

- 本体の清掃に中性洗剤以外のものを使用しないでください。部品の変質、劣化の原因になります。



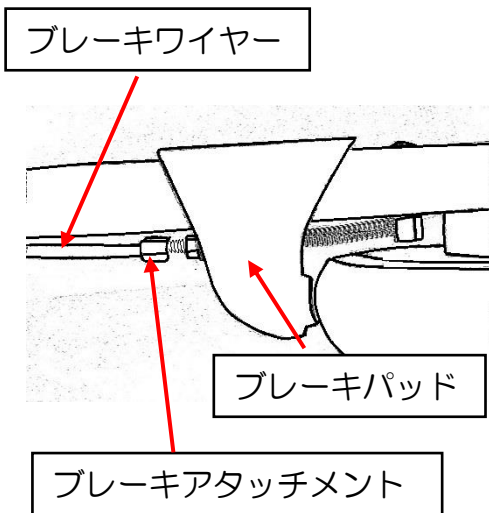
注意

- ブレーキパッドとタイヤの間に泥などの汚れが付着していないか確認してください。泥や汚れによりブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。

●不具合のチェック

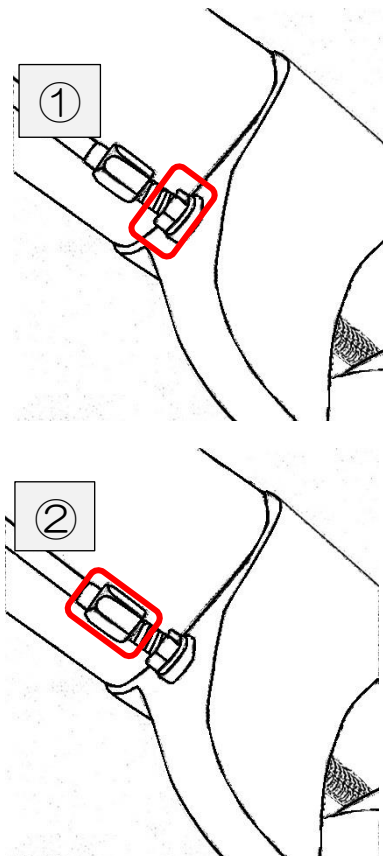
- ・本体を左右に操作し、タイヤおよびフロントフォークが円滑に回転していることを確認してください。
- ・タイヤおよびフロントフォークの取り付けネジが適切に締められてがたつきがないか確認してください。
- ・ブレーキパッドと後輪の間に泥や汚れが付着していないか確認してください。

●ブレーキがきかなくなったら・・・

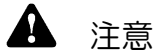


- ブレーキワイヤーがブレーキレバーおよびブレーキアタッチメントから外れていないか確認してください。
- ブレーキをかけた際に、ブレーキパッドが正しく作動しているか、また後輪とブレーキパッドの間に、汚れが付着していないか確認してください。
- ブレーキワイヤーがブレーキレバーおよびブレーキアタッチメントに固定されているか確認してください。
- ブレーキパッド部分のバネが破損していないか確認してください。
- ブレーキをかけたときにブレーキパッドが後輪を押し付けているか確認してください。

●ブレーキの調整方法



- ブレーキレバーを上にあげてブレーキロックを解除します。
- ①のネジを緩めてください。
- ②のネジを緩める（反時計回り）とブレーキが強くなるようになり、ネジを締める（時計回り）と弱くなります。
- ブレーキパッドと後輪の距離をブレーキがしっかりと利くよう調整してください。
- 調整後、①のネジを締め固定してください。



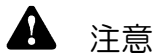
注意

製品の安全性を維持する為にも決して分解はしないでください。



注意

タイヤの磨耗、ネジ類のゆるみ、部品の破損および動作不良がないかを適時点検し、必要に応じて交換をしてください。



注意

製品の破損や異常を発見した場合は、ただちに使用を中止しお買い求め頂いた販売店もしくは弊社までご連絡ください。
そのまま使用しますと重大な事故につながる恐れがあります。

●廃棄方法

廃棄する場合は、お住まいの自治体の処理方法をご確認の上、その指示に従って廃棄してください。

仕 様



全幅	620mm
全長	660mm
ハンドル高さ	780~920mm
折り畳み幅	235mm (杖ホルダー含む)
ハンドル幅 (内寸)	460mm
座面高さ	550mm
利用者最大体重	150kg
バスケット容量	5.0kg
本体重量	5.8kg (パーツを含む重量約 6.35 kg)
タイヤ (直径×幅)	200×35mm

※製品の仕様は予告なく変更する場合がございますので予めご了承ください。

LAC

ラックヘルスケア株式会社

〒542-0081

大阪府中央区南船場 2-10-2

TEL : 06-6244-0636 FAX : 06-6244-0836